

玄武洞・ コウノトリの郷公園地区

(兵庫県豊岡市)

- 計画期間 平成17年～平成20年
- 面積 695ha
- 交付対象事業費 235百万円
- 市人口 87,911人 (地区内人口 2,400人)

ポイント

玄武洞公園とコウノトリの郷公園の活用による自然環境学習基盤整備

地区概要

特別天然記念物「コウノトリ」の野生復帰の取組みを進めているコウノトリの郷公園と天然記念物「玄武洞」を有する玄武洞公園とのネットワークを図り、自然の魅力と学術的価値を高めながら交流拠点を確立させる。

目標

地球磁場逆転期が過去に存在したことを証明する基となった天然記念物「玄武洞」と、平成17年9月に試験放鳥された特別天然記念物「コウノトリ」を有するそれぞれの公園を連携し整備することにより、自然環境学習の基盤を充実させながら地域の活性化を目指す。

指標

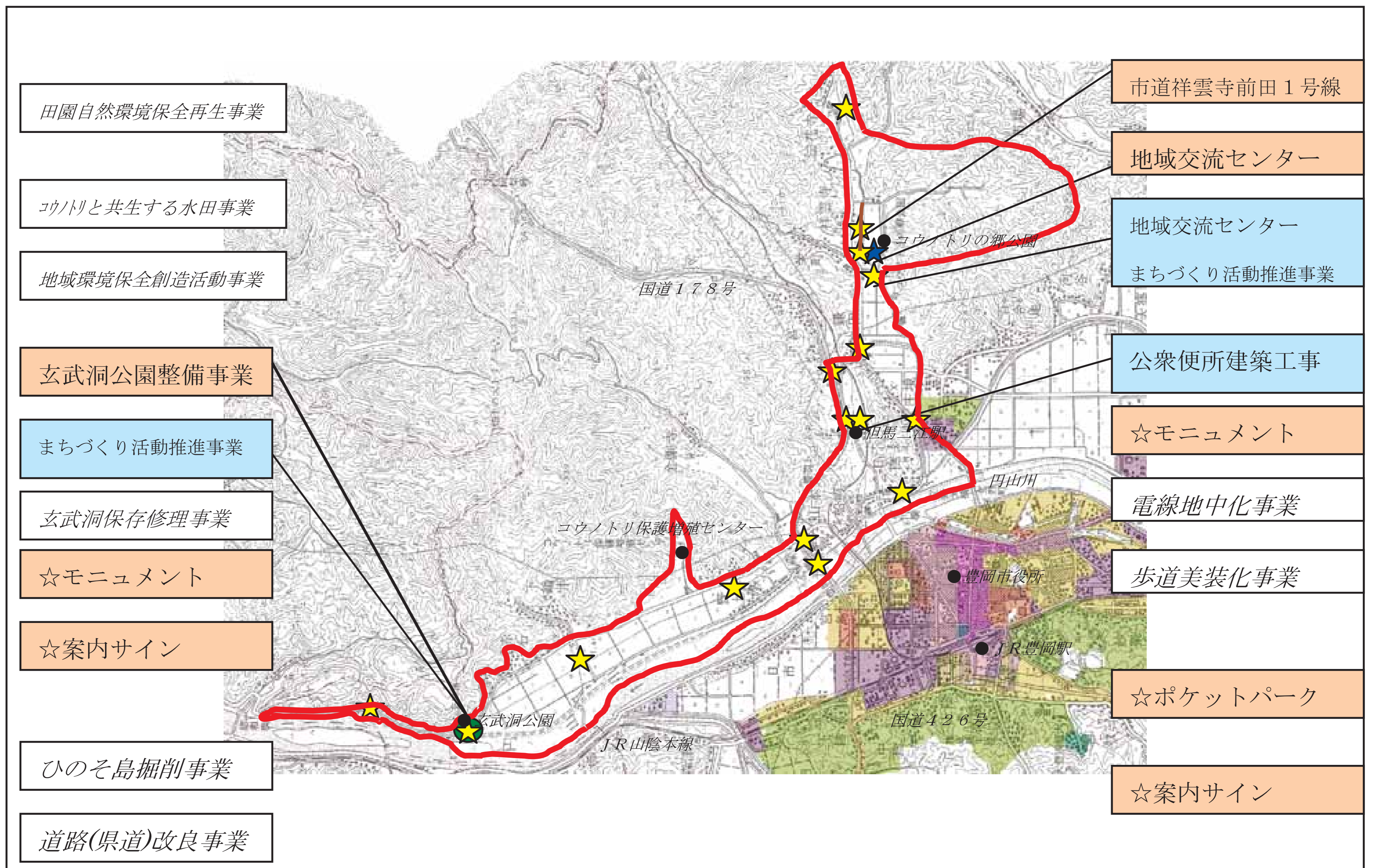
公園整備による来園者数と環境学習の参加者人数を目標とした。

項目	現況値	(年)	→	見込み値	(年)
玄武洞公園 来園者数	193,000人	(H16)	→	232,000人	(H20)
コウノトリの郷公園 来園者数	160,000人	(H16)	→	200,000人	(H20)
環境・教育学習の参加人数	800人	(H16)	→	1,600人	(H20)

事業内容

基幹事業 (189 百万円) → 道路 (4.0m、延長 460m)、公園 (1箇所、1.1ha)、ポケットパーク (3箇所)、案内サイン (15 箇所)、総合案内板 (4 箇所)、解説板 (2 箇所)、モニュメント (2 箇所)、地域交流センター (1 箇所、82 m²)

提案事業 (46 百万円) → 地域交流センター (1 箇所、222 m²)、公衆便所 (1 箇所、20 m²)、まちづくり活動推進事業 (啓発・研修活動)



地区の現況と課題

玄武洞公園内にある5つの洞は、洞上部の樹木の成長や岩石の風化により落石が多くなっている。また、公園内の施設等も老朽化が進んでおり、観光名所でありながら荒れた状況となっている。

一方、コウノトリの郷公園は、平成17年9月の試験放鳥以後、来園者数は増加したものの、物販施設等が存在しないため来園者の滞在時間も短く、地域経済の活性化にまでは結びついていない。

これらの公園を整備して来園者を増加させながら、多様な交流により地域の賑わいを生み出す。また、玄武洞の高い学術的価値や、コウノトリ放鳥によって取組みが進む「人と自然が共生する持続可能な地域づくり」を、全国に広くアピールすることが必要とされている。

提案事業の特徴

地域交流センターの設置

観光・交流情報の提供やコウノトリツーリズムの開発・提供機能を有し、コウノトリをシンボルとする関連商品をはじめ地域で採れた安全・安心な有機農産物、こだわりの特産品などの販売機能をあわせ持つ地域交流センターを整備する。

天然記念物の保護・活用

国の特別天然記念物「コウノトリ」を保護・増殖するとともに天然記念物「玄武洞」を保存し、地域内のその他の観光資源と有機的に連携させながら魅力をさらに高めることによって、地域全体の価値を高める。

計画策定プロセス

時機を得た情報提供と市民参画の実施

市民に対して計画の概要を市広報等でお知らせするとともに、意見交換しながら事業を進めている。

運営主体（コンソーシアム）の勉強会

中核施設の「地域交流センター」の運営主体となる「コンソーシアム（連合企業体）」の参加事業者など関係者を対象に、効果的な運営等についての勉強会をワークショップも交えながら1ヶ月に2回ペースで開催している。

中貝市長のコメント

コウノトリ野生復帰事業は、単なる希少種の保護にとどまらず、私たちが過去に失ってきた大切なものを取り戻す取組みであり、同時に、私たちが進むべき未来を切り拓く取組みでもあります。また、玄武洞公園の整備は、はるかな過去に刻まれた地球の記憶をしっかりと保存し、未来へと受け継いでいく取組みです。

こうした深い物語に触れようと、全国から多くの人々にお越しいただいています。まちづくり交付金を活用した事業展開によって互いを連携させ、新たな交流を生み出しながら、豊岡をさらに元気にしていきたいと考えています。

▼落石を除去し本来の姿となった北朱雀洞



▼コウノトリの試験放鳥



▼運営主体（コンソーシアム）の勉強会



▼市民フォーラムの開催

